

工場がつくった街 発寒鉄工団地

市内には金属加工や機械生産といった製造業の分野で高い技術を持った企業がたくさんあり、それらが集まっていくつかの工業団地を形成しています。今回は、札幌の代表的な工業団地である発寒鉄工団地について紹介します。

西区は札幌市の 製造業の中心地

平成十二年の「工業統計調査」によると、同年に西区内で生産された製造品の総額は約千八百二十億円。この額は札幌市全体の出荷額（七千七百十四億円）の約四分の一に当たり、十区中第一位です。製造品目別にみても西区は、「鉄鋼業」で市全体の出荷額の約八割を占めているほか「食料品」「家具・装備品」「金属製品」「一般機械器具」「電気機械器具」の各分野でトップの出荷額を誇っています。このように、西区は札幌市の製造業の中心地として重要な位置を占めています。

発寒鉄工団地を 中心に広がる工場群

西区で製造業が盛んな理由の一つに工業団地の存在があります。工業団地とは特定の地域に、関連のある工場を集めて、施設や情報を共有したり、共同で受注したりすることで生産活動を合理的に行おうというものです。

札幌市には現在、十五の工業団地（※①）がありますが、その中で、敷地面積、出荷額とも最大規模を誇るのが発寒鉄工団地です。同

団地は、札幌鉄工団地共同組合（※②）に加盟する六十の企業で構成されており、主に、鉄骨や機械器具など鉄を利用した製品を開発・生産しています。団地のあるJR発寒駅の北側には、各企業の工場や倉庫のほか、組合の共同給油所や共同変電所などの関連施設が集まり、約二千二百人の従業員が働いています。

また、その周辺には、発寒鉄工団地の後に造成された発寒鉄工関連団地や、発寒第二、第三、第四の各工業団地があり、互いに連携を取りながら生産活動を行っています。

無人地帯だった 発寒地区

発寒鉄工団地が誕生したのは昭和三十八年。市内の工業団地としては、発寒木工団地と並んで最も古い歴史を誇ります。

発寒鉄工団地の建設工事



▲工場建設前の発寒鉄工団地造成予定地
現在のJR発寒駅方面から団地方面を望む

※① 札幌の工業団地

札幌に発寒鉄工団地や発寒木工団地が建設されたのは、昭和三十年代に始まった国の中小企業集団化政策によるものでした。現在では、多くの自治体が、産業基盤の確立や雇用の確保を目的に産業団地を造成。団地に進出する企業に対して資金の融資制度や税制上の優遇措置を設けるなど、積極的な企業誘致を進めています。

先端技術産業の育成に力を入れている札幌市でも、従来の工業団地のほか、コンピュータソフトなどの開発を行う「札幌ハイテクヒル真栄」や芸術関連産業を対象にした「札幌アートビレッジ（南区）」などの研究開発団地を分譲しています。

※② 札幌鉄工団地共同組合

施設の共同管理や共同事業、共同労務管理などを通じて、加盟企業の共存共栄を図る目的で昭和三十七年に設立。